

御挨拶

このたび2004年に本大学の三番目の学部として設置されましたリハビリテーション学部が開設二年を経過し、三年目を迎える四月に大学院研究科の開設を控えた此の期にリハビリテーション学部紀要「リハビリテーション科学ジャーナル」創刊号を発行する運びとなりましたことに大変喜ばしく存じているところです。新設学部として、完成年度を迎える過程の多忙のなかで理学、作業、言語聴覚各専攻教員の協力と創意によるこのジャーナルはリハビリテーション各技術と活動の向上に先進的役割を担ってくれるものと大きな期待もしているところです。

本学は校名に示すようにキリスト教精神に基づく「隣人愛」を教育理念とした教育施設として1952年に病める人、悩める人、障害のある人など弱き人々を支え又ケアをする人をと看護教育が開始されたのが母体となりその精神は今日に引き継がれてきております。以来、より質の高い教育にと展開し、かさねて時代の要請に応えるために福祉教育を増設して参りました。

一方大学教育としては1992年に看護の単科大学を新設したのを始めとし2002年に社会福祉学部を増設、続いてリハビリテーション学部の増設、大学院リハビリ科学研究科の開設により2006年度には三学部三研究科を有する大学として、次の博士課程開設の準備に至っているところです。本学はその歴史のうえからも実践を大切にしてきました事からその能力を備わった保健医療福祉の専門職育成に力を注いで参りました。又今後もその精神を継承し社会貢献を果すことを使命としているところであり其のひとつに各教員の研究も必定と思われまふ。

「リハビリテーション科学ジャーナル」は学部教員にとどまらず、実習施設、関連施設の方々の投稿も歓迎との事です。ご参加をお待ちしております。学内外、他の職種の方々との共同研究にと発展していく事も期待しております。今後、研究はより科学的根拠が求められてくるでしょうし、実践に結びつけられた研究は、質の高い教育にと発展し、質の良いケアを提供できるものと確信し、其れが本学の目標でもあります。

皆様から種々なるご意見を戴き糧と出来まふことを幸いと存じます。

2006年 弥生

学長 深瀬須加子